令和2年度全国学力・学習状況調査の問題冊子等の活用（例）

	A 校内研修で活用	B 調査の実施	C 授業で調査問題を活用
メリット	➢ 求められている学力を教員が理解し，授業改善につなげることができる。 ➢ 調査問題を踏まえた授業改善を学校全体で行うことができる。	➢ 児童生徒の学習状況を客観的に把握し，課題を明確にすることができる。 ➢ 児童生徒の課題に即した個別の支援や授業改善ができる。	➢ 全国調査の問題を実際の授業展開に生かすことができる。 ➢ 学習進度を遅らせず，調査問題を取り扱うことができる。
手順	① 教員が問題を解く。 ② ①を踏まえ，授業改善の方向性について話し合い，具体的な取組事項を決める。 ③ 取組事項を，学力向上プランに反映させる。 ④ 学力向上プランに則り，定期的に検証改善を行う。 	① 実施期間を決め，調査を実施する。 ② 校内で採点し，集計支援ツールを活用する。 ③ 正答率の低い問題について分析し，課題を洗い出す。 ④ 調査対象学年の課題を学校全体で共有し，学年・学級の授業改善に取り組む。 ⑤ 調査結果を生かし，個に応じたきめ細かい指導を行う。 	① 別紙「調査問題と学習内容の関連表」で授業を扱う学年や学習内容を確認する。 ② 調査問題を学習課題にしたり，単元のまとめで解いたりして活用する。 ③ 授業をする際には，各教科の「解説資料」を参考にする。

A, B. Cの方法を組み合わせた活用（例）		参考となるツールや資料
Ⅰ型	A ➡ B ➡ C	・問題冊子　・調査問題と学習内容の関連表　・集計支援ツール　・解説資料
Ⅱ型	A ➡ B	・問題冊子　・調査問題と学習内容の関連表　・集計支援ツール　・解説資料
Ⅲ型	A ➡ C	・問題冊子　・調査問題と学習内容の関連表　・解説資料
Ⅳ型	A	・問題冊子　・調査問題と学習内容の関連表　・解説資料